東和工業株式会社
https://www.towaltd.co.jp

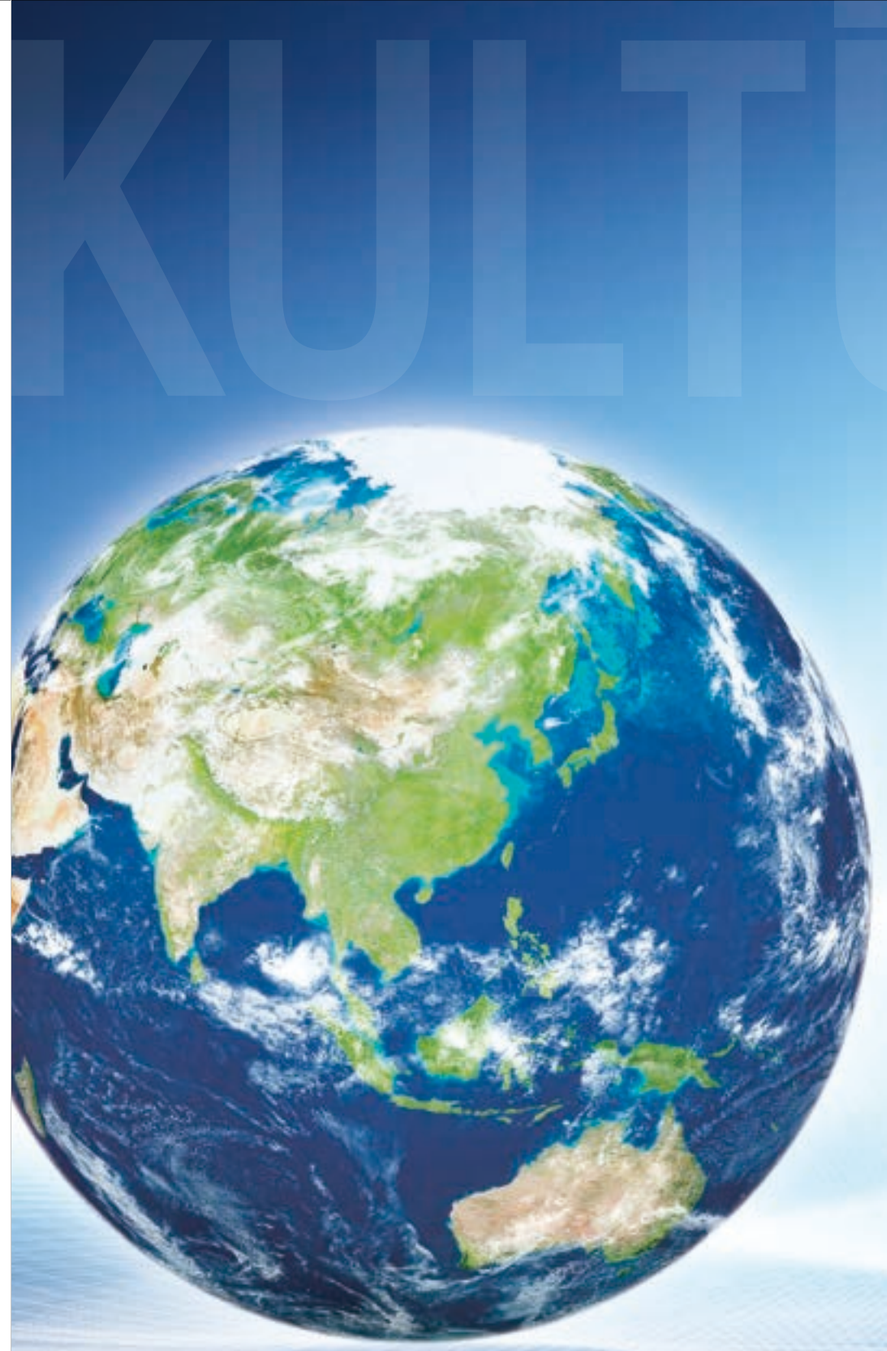
本社
東京工場
〒174-0043
東京都板橋区坂下3丁目29番11号
Tel. 03(3968)2301(代)　Fax. 03(3966)1801

大阪営業所
〒540-0004
大阪府大阪市中央区玉造1丁目6番13号 玉造ロイヤルビル7階
Tel. 06(6767)4007(代)　Fax. 06(6767)4015

福岡営業所
〒810-0073
福岡県福岡市中央区舞鶴3丁目7番13号 大禅ビル5階
Tel. 092(735)7274(代)　Fax. 092(735)0717

埼玉工場
〒354-0045
埼玉県入間郡三芳町大字上富306番地
Tel. 049(258)3686(代)　Fax. 049(258)3604

2023-07-1000TP



改質アスファルトシート
常温粘着工法

クルタル
建築シート

Kultūr Sheet for Architecture

東和工業株式会社

クルタルシート（常温粘着シート）

「クルタルシート」は、粘弾性、伸張性、熱安定性の優れた改質アスファルトと寸法安定性に優れたポリエステルスパンボンド（ガラスメッシュ入り）を中心として含浸塗覆し、裏面に粘着層を設けた三層構成になっています。
そのため上下それぞれの層において、外傷や構造体の変化を吸収する力を備え、結果的には積層工法と同様の効果を十分に発揮することができます。

クルタルシートの特長

常温粘着工法によって高度な水密防水ができます。

プライマーで処理された下地にシートを圧着するだけで、同質一体の水密性の高い防水層を形成します。

合理的構造によって防水機能が確保できます。

三層構成により、下地亀裂に対し、強い抵抗性を有します。

施工が容易で省力化ができます。

工程が少なく工期短縮と省力化が計れます。

省エネルギー、省資源の環境配慮型です。

煙、臭気がなく二酸化炭素（CO_2）の削減ができます。

材質・形状の安定したプレハブ材です。

品質管理の徹底した工場で連続的に生産することにより、材質、形状、品質の安定した製品が確保されます。

クルタルシート防水工法標準仕様

押え防水

（上段：平場部、下段：立上り部）

仕様番号	工法	1	2	3	4	5	6
TK-110	密着1層	クルタルプライマーA 0.2kg/㎡	クルタルシートES−525	絶縁用シート			
TK-120	密着2層	クルタルプライマーA 0.2kg/㎡	クルタルシートFP−150	クルタルシートES−525	絶縁用シート		
TK-140	絶縁2層	クルタルプライマーA 0.2kg/㎡	エアーフラップシートCT	クルタルシートES−525	絶縁用シート		
			クルタルシートFP−150				

●立上りを露出仕上げとする場合は、工程２または３のクルタルシートES-525をクルタルシートES-530に変更する。

押え断熱防水

（上段：平場部、下段：立上り部）

仕様番号	工法	1	2	3	4	5	6
TK-110D	密着1層	クルタルプライマーA 0.2kg/㎡	クルタルシートES−525	TSコーチング 0.5kg/㎡	ポリスチレンボード	PPヤーンクロス	
TK-120D	密着2層	クルタルプライマーA 0.2kg/㎡	クルタルシートFP−150	クルタルシートES−525	TSコーチング 0.5kg/㎡	ポリスチレンボード	PPヤーンクロス
TK-140D	絶縁2層	クルタルプライマーA 0.2kg/㎡	エアーフラップシートCT	クルタルシートES−525	TSコーチング 0.5kg/㎡	ポリスチレンボード	PPヤーンクロス
			クルタルシートFP−150				

●立上りを露出仕上げとする場合は、工程２または３のクルタルシートES-525をクルタルシートES-530に変更する。

露出防水

（上段：平場部、下段：立上り部）

仕様番号	工法	1	2	3	4	5	6
TK-310	密着1層	クルタルプライマーA 0.2kg/㎡	クルタルシートES−530				
TK-320	密着2層	クルタルプライマーA 0.2kg/㎡	クルタルシートFP−150	クルタルシートES−530			
TK-340	絶縁2層	クルタルプライマーA 0.2kg/㎡	エアーフラップシートCT	クルタルシートES−530			
			クルタルシートFP−150				

露出断熱防水

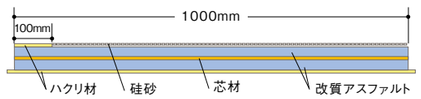
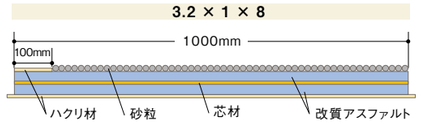
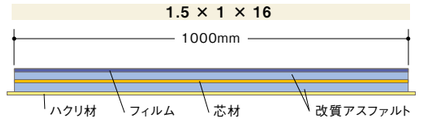
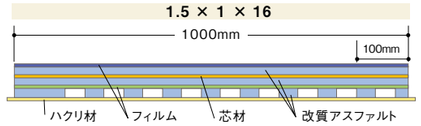
（上段：平場部、下段：立上り部）

仕様番号	工法	1	2	3	4	5	6
TK-320D	断熱2層	クルタルプライマーA 0.2kg/㎡	TSコーチング 0.5kg/㎡	硬質ウレタンボード	クルタルシートFP−150	クルタルシートES−530	
TK-340D	断熱2層	クルタルプライマーA 0.2kg/㎡	TSコーチング 0.5kg/㎡	硬質ウレタンボード	エアーフラップシートCT	クルタルシートES−530	
					クルタルシートFP−150		

●露出防水仕様のトップコートは別途工事となります。

クルタルシート防水工法材料

主要材料

品 名	厚(mm)× 幅(m)× 長(m)	用途及び区分
クルタルシート ES-525	2.6 × 1 × 8 	JIS A 6013 適合品 非露出単・複層防水用 R種、Ⅱ類 粘着層付改質アスファルトシート
クルタルシート ES-530	3.2 × 1 × 8 	JIS A 6013 適合品 露出単・複層防水用 R種、Ⅱ類 粘着層付改質アスファルトシート
クルタルシート FP-150	1.5 × 1 × 16 	JIS A 6013 適合品 非露出複層防水用 R種、Ⅱ類 粘着層付改質アスファルトシート
エアーフラップシート CT	1.5 × 1 × 16 	JIS A 6013 適合品 非露出複層防水用 R種、Ⅱ類 部分粘着層付改質アスファルトシート

副材料一覧表

品 名	形 状		適 用	
クルタルプライマー A	18L 缶入（約17kg、ゴムアスファルト系溶剤型）		下地処理用	
クルタルプライマーエマルジョン	17L 缶入（約17kg、合成樹脂系エマルジョン型）			
TS 水性プライマー	17kg 缶入（アスファルト系水性型）			
クルタルコート	グレー、グリーン、ブラウン	16kg 缶入	砂付仕上用	0.4kg/㎡～ 0.6kg/㎡
	グレー、グリーン、ブラウン（硅砂入り）	20kg 缶入		1.5kg/㎡～ 1.7kg/㎡
クルタルコート　高反射	シルバーグレー、グリーン、ブラウン	16kg 缶入		0.5kg/㎡～ 0.7kg/㎡
TS コーチング	18kg 缶入（ゴムアスファルト系溶剤型）		防水層末端シール、断熱材接着用	
クルタルボンドカートリッジ	330cc×30 本箱入（ゴムアスファルト系溶剤型）		防水層末端シール	
クルタルシーラント	18kg 缶入（ゴムアスファルト系溶剤型）		砂面接合部の接着剤	
クルタルボンド H	20kg 缶入（アスファルト系溶剤型）		下地活性剤、仮防水材	
FP-150 テープ	20cm×16m、1.5mm 厚（改質アスファルトシート）		出入隅・角部	
TK テープ	20cm×10m、1.5mm 厚（改質アスファルトシート）		ドレン・パイプ回りの等の増張り	
硬質ウレタンボード	605×910mm　25、30、35、40、50、60mm 各厚		露出断熱用（面材付）	
ポリスチレンボード	910×910mm　25、30、35、40、50mm 各厚		押え断熱用（スキン付）	
PP ヤーンクロス	1m×100m、ポリプロピレンクロス平織　70g/ ㎡程度		押え防水	
ポリエチレンフィルム	2.0m×50m、0.15mm 厚		絶縁用シート	
改修用ドレン	横引用、竪用（鉛製）		改修用	
ドレンキャップ	鋳物製　横引用、竪用			
	アルミダイカスト製　横引用、竪用			
脱気筒	ステンレス製		平場用	
脱気盤	ステンレス製　　通気シート付き		立上り用	

副材料の種類と用途

クルタルプライマーA

アスファルト系溶剤型
消防法　危険物　第４類　第１石油類

●下地と防水層の接着性を良好にする下地処理材で常温乾燥型のゴムアスファルト系プライマー。
●作業中は火気と換気に十分注意する。

TS水性プライマー

アスファルト系水性型

●下地と防水層の接着性を良好にする下地処理材で常温乾燥型。
●使用前は十分攪拌する。
●火気使用禁止又は換気が出来ない場所で使用する。
●5℃以下の施工は避ける。
●凍結させないように5℃～40℃で保管する。（凍結により使用できなくなる場合がある。）

クルタルプライマーエマルジョン

合成樹脂系エマルジョン型

●下地と防水層の接着性を良好にする下地処理材で、常温乾燥型の水性プライマー。
●下地の湿潤面又は換気の不十分な場所に使用する。
●5℃以下の施工は避ける。
●凍結させないように5℃～40℃で保管する。

TSコーチング

ゴムアスファルト系溶剤型
消防法　危険物　第２類　可燃性固体

●常温硬化型のゴムアスファルト系シール材で押え金物の上端部、ドレン、役物回り及びひび割れ等のシール処理材。
●断熱材の接着用
●作業中は火気と換気に十分注意する。
●垂直面の施工はクルタルボンドカートリッジを使用する。

クルタルコート

アクリル樹脂エマルジョン型
グレー、グリーン、ブラウン

●砂付仕上げ工法の保護塗料で防水層の耐久性を維持する。
●使用前は十分攪拌する。
●5℃以下の施工は避ける。
●凍結させないように5℃～40℃で保管する。（凍結により使用できなくなる場合がある。）

グレー　グリーン　ブラウン

※色見本は参考の色です。
必ず実際の各色見本帳をご確認下さい。

クルタルコート 高反射

アクリル樹脂エマルジョン型
シルバーグレー、グリーン、ブラウン

●砂付仕上げ工法の保護塗料で防水層の耐久性を維持する。
●赤外線を反射し、屋根表面温度の上昇を抑制する。
●使用前は十分攪拌する。
●5℃以下の施工は避ける。
●凍結させないように3℃～40℃で保管する。（凍結により使用できなくなる場合がある。）

シルバーグレー　グリーン　ブラウン

※色見本は参考の色です。
必ず実際の各色見本帳をご確認下さい。

クルタルボンドカートリッジ

ゴムアスファルト系溶剤型
消防法　指定可燃物

●常温硬化型のゴムアスファルト系シール材で押え金物の上端部、ドレン、役物回り及びひび割れ等のシール処理材。

クルタルシーラント

ゴムアスファルト系溶剤型
消防法　指定可燃物

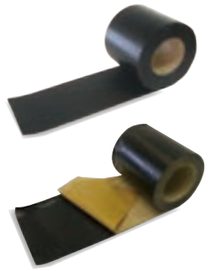
●常温硬化型のゴムアスファルト系でシート端部の砂面接合部（ラップ部等）の接着剤。

クルタルボンド H

アスファルト系溶剤型
消防法　危険物　第４類　第２石油類

- アスファルト、揮発性溶剤、無機質系充填材を加えた常温乾燥型の既存防水層の下地活性剤で新規防水材との接着が良好。
- 使用前は十分攪拌する。
- 既存防水層撤去後の仮防水。
- 作業中は火気と換気に十分注意する。

増張り材



FP-150テープ
20cm×16m、1.5mm厚
- クルタルシート FP-150 のカット品

TKテープ
20cm×10m、1.5mm厚
- 両面粘着層

硬質ウレタンボード

JIS A 9521　建築用断熱材
硬質ウレタンフォーム断熱材　3種1号DI相当（面材付）
露出断熱防水用
605×910mm、25、30、35、40、50、60mm各厚

ポリスチレンボード

JIS A 9521 建築用断熱材
押出法ポリスチレンフォーム断熱材　3種bA（スキン付）
押え断熱防水用
910×910mm、25、30、35、40、50mm各厚

改修用ドレン 横引用

ジャバラ外径　45～139mm
皿部　300×300、400×400mm
ジャバラ L=400、600、1000mm
（鉛製）

改修用ドレン 竪用

外径　36～145mm
皿部　300×300、400×400mm
（鉛製）

ドレンキャップ 横引用

アルミダイカスト製
底部110×60mm、H=100mm
底部150×80mm、H=120mm

ドレンキャップ 竪用

アルミダイカスト製
底部径110mm、H=90mm
底部径150mm、H=105mm
底部径180mm、H=140mm

脱気装置

脱気筒（平場用）
ステンレス（SUS 304）
ベース径 200mm
外筒径 70mm
H=200mm
80㎡程度に1ヶ所設置

脱気盤（立上り用）
ステンレス（SUS 304）
通気シート付き
100×130mm、11mm厚 10m程度に1ヶ所設置

有機溶剤取扱いの注意

1. 取扱う作業所には局所排気装置を設けてください。
2. 引火性の製品ですので、指定数量以上取扱ったり貯蔵する場合は、消防法の危険物第4類の規制を受けます。
3. 引火性がありますので、火気を近づけないでください。
4. 取扱中は保護めがね、保護手袋、必要に応じて有機溶剤用マスク等を着用してください。
5. 取扱後は石鹸でよく洗い、うがいを十分行ってください。

副材料の保管

雨露や直射日光のあたらない場所に湿気の影響や損傷等を受けない状態で保管してください。

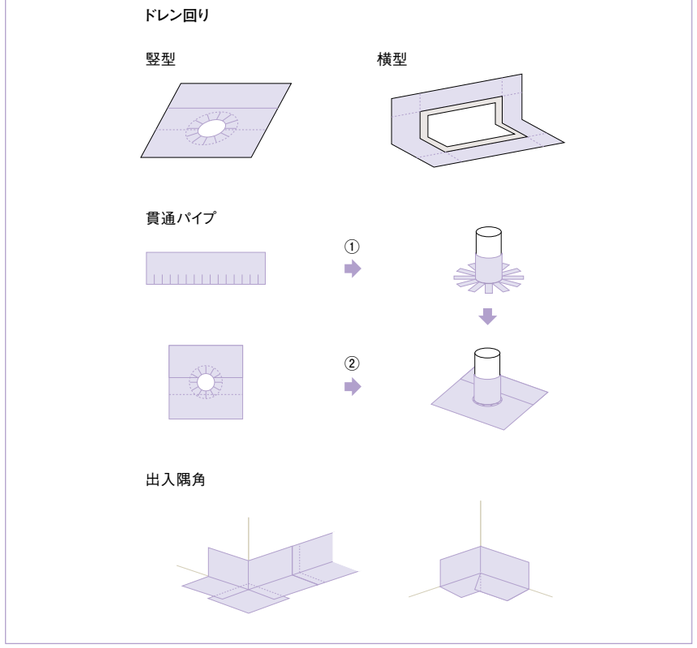
施工手順

■ 下地のチェックとプライマー塗布

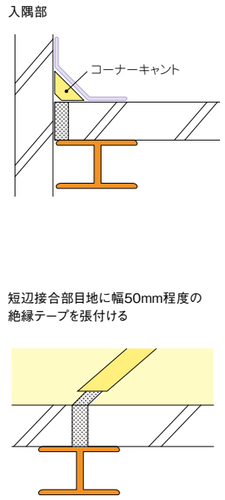
- 下地の塵埃、レイタンス、凹凸、湿潤等が防水層の接着を妨げたり、不陸及びドレンの取り付け不良等が排水の不具合要因にならないことを確認する。
（勾配　露出防水　1/50 ～ 1/20、押え防水　1/100 ～ 1/50）
- プライマーの塗布は下地に浸透するようむらなく行う。
屋内、地下等の換気が悪い場所には、必要に応じて TS 水性プライマーを使用する。
ALC パネル下地の使用量は 0.4kg / ㎡（2 回塗り）とする。
（乾燥の目安は指触乾燥程度とする。）

■ 増張り　FP-150テープ・TK テープ

ドレン、パイプ、出入隅及び出入隅角部に増張りシートの重ね段差、小口のめくれ、隅角部の突っ張りがなく、下地としっかり密着するようにローラー、ステッチャー等で転圧する。



ALC パネルの増張りと目地の処置



■ シート張り

● 下張り（複層用下張りシート）

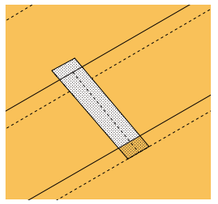
［クルタルシートFP－150］

上張りシートとクルタルシートFP－150の接合部が同一箇所とならないよう割付けをする。クルタルシートFP－150の裏面のハクリ材を引き剥がしながら、ローラー、ステッチャー等で転圧・密着させる。シートの接合幅は長手、短辺とも100mm以上重ねる。

［エアーフラップシートCT］部分接着型通気シート

クルタルシートFP－150と同じ要領で張り付けする。シートの接合幅は長手100mm以上重ね、短辺接合部は突き付けとしFP－150テープで増張りする。
※立上り際から幅500mm程度はクルタルシートFP－150で密着張りする。

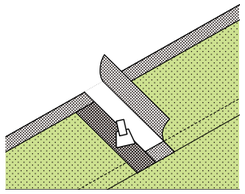
短辺接合部等の増張り



● 単層張り、複層の上張り

［クルタルシート ES−530、ES−525］

各シートともあらかじめ割付けを定め、水下から水上に向かって張り付ける。ドレンと下地勾配を考慮した墨付けにそって仮敷きし、そのまま半分を巻き戻し、ハクリ材を引き剥しながらシートの曲がり、ゆがみ、空気の巻き込みが生じないようにローラー、ステッチャー等で転圧・密着させる。シートの接合幅は長手、短辺とも100mm以上重ねる。

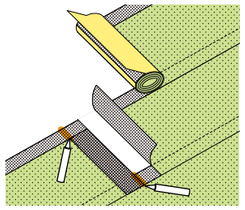


○ **砂面の接合**

シート端部の砂面接合部にクルタルシーラントを塗布した後、張り付け転圧する。又は、バーナーで接合部の砂面をあぶり、砂を沈めるかコテ等でかき取って改質アスファルトを表面に出した後、張り付け転圧する。

○ **シートの3枚重ね部分（平場、立上りとも）**

3枚重ね部分は、水みちになりやすいので中間のシートの端部にクルタルボンドカートリッジを充填するか、バーナーで溶融する等の処置をして平滑にする。



［シートの張り仕舞い］

○ **シートの末端部処理**

ドレン回り、貫通パイプ回り（ステンレス製既製バンド等で上端部を締めつける）等のシート末端部はクルタルボンドカートリッジ等でシール処理する。

○ **立上り端部処理**

立上り防水層末端部は十分な剛性と、耐腐食性を有する押え金物、金属製笠木等で確実に固定し、防水層上端部はクルタルボンドカートリッジ等でシール処理する。

■ 断熱材の張付け

● 露出断熱工法の場合（硬質ウレタンボード）

櫛目ヘラ等でTSコーチングを点付け、又は均等に塗りながら段差及び隙間のないように順次張り付ける。断熱材の張付けは、その日に張り付ける防水シートに見合った面積を施工する。

● 押え断熱工法の場合（ポリスチレンボード）

クルタルシートES−525の面に櫛目ヘラ等でTSコーチングを点付けし、段差及び隙間のないように順次張り付ける。

■ トップコートの塗布

十分撹拌後、ローラー刷毛（硅砂入りはゴム刷毛）等で色むらのないように所要量を塗布する。
（ただし、5℃以下及び当日に降雨降雪が予想される場合は避ける。）

■ 押え層

● 保護コンクリート

普通コンクリートとする。ひび割れ防止に溶接金網を敷き込み、すみやかに打設する。

● 立上り部の保護層

［乾式工法］

立上り部の保護・仕上げとして、れんが類に替わり乾式で施工する。保護パネル類は金属板、セメント成形板、金属系複合板等があり、選択にあたっては、防水層立上り部の点検・維持・管理が容易な構造のものが望ましい。

［従来工法］

• れんが、ブロック押え

れんが積みは半枚積みとし、防水層から20mm程度離し、隙間にはモルタルを充填する。

• 現場打ちコンクリート

保護コンクリートを上部天端まで確実に充填するように打設する。防水層末端部は押え金物で固定し、シール処理する。

• モルタル押え（室内防水層）

200mm程度間隔に千鳥状にトンボをつけ、メタルラスを取り付けた後にモルタル塗りをする。

■ 成形伸縮目地材等

● 絶縁用シート

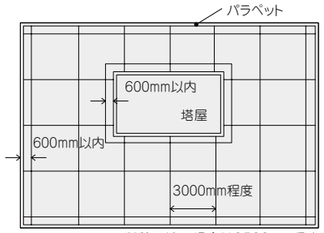
防水層完了後、重ね幅100mm程度とりながら粘着テープ等で固定し、平場に敷き込む。
（断熱工法はPPヤーンクロスを使用する。）

● 成形緩衝材

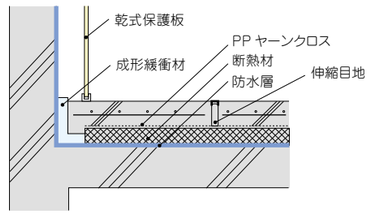
パラペット、塔屋等の立上り際には、成形緩衝材を取り付ける。

● 成形伸縮目地材

縦・横の間隔は3m程度(断熱工法は2.5m程度)とし、立上りパラペットや塔屋等の立上り際から600mm以内の位置で、キャップ幅は25mm程度とする。また、防水層上面の絶縁用シート面から保護コンクリート表面に達するように設置する。



断熱工法の場合は2500mm程度

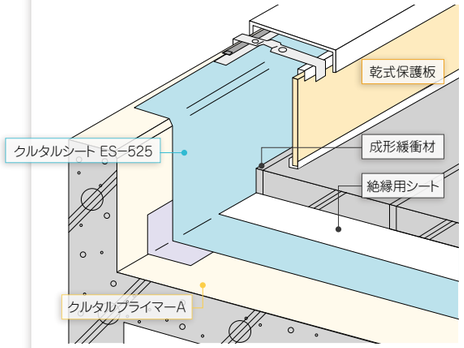


バーナー使用による熱溶着工法の注意点

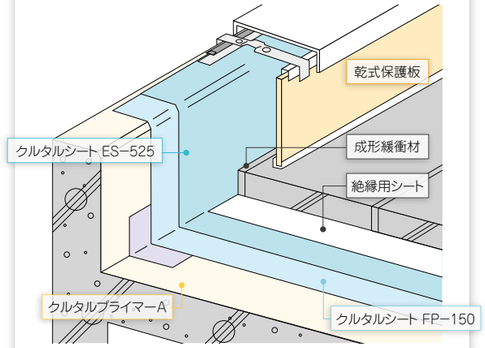
- 火気使用の可・否の確認。
- 消火器を用意する。
- 下地面を加熱する場合は、結露現象を確認し、この状態が消滅するまで加熱する。
- シート粘着面の加熱は、改質アスファルトに光沢が生ずるまでとする。
- シート砂粒面は、改質アスファルトが溶融し始めた状態までとする。

クルタルシート防水工法施工例図

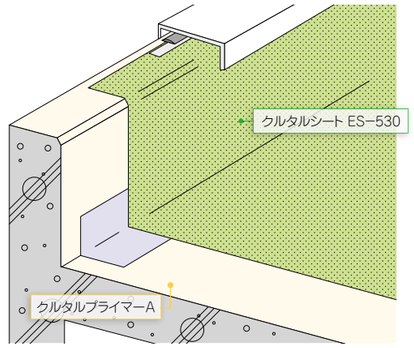
■押え防水 TK-110



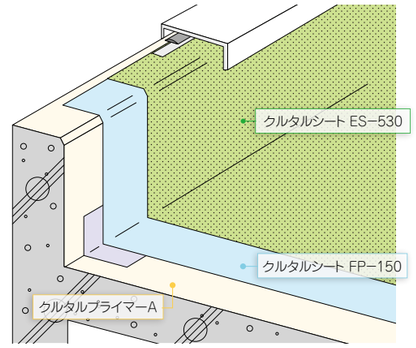
■押え防水 TK-120



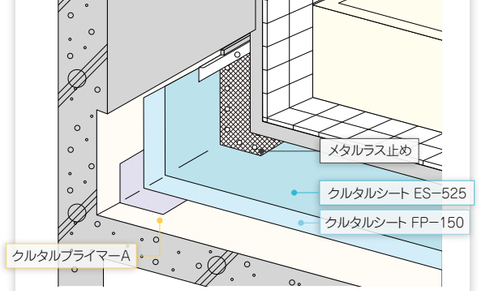
■露出防水 TK-310



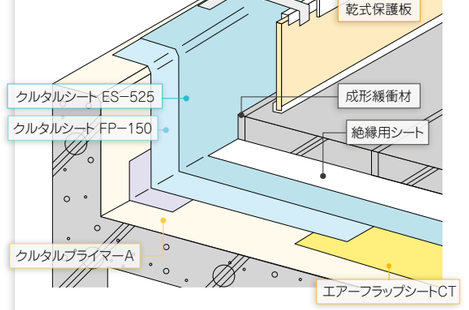
■露出防水 TK-320



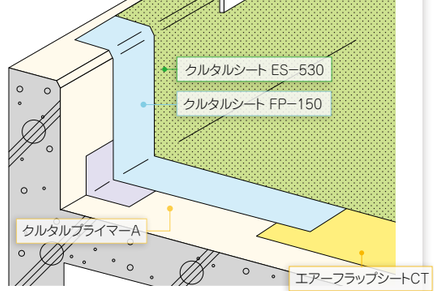
■押え防水 TK-120



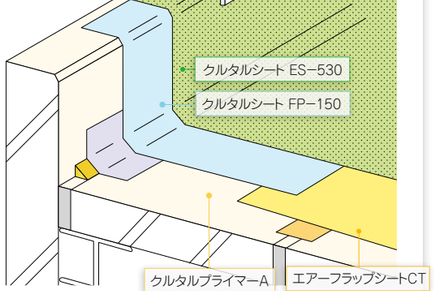
■押え防水 TK-140



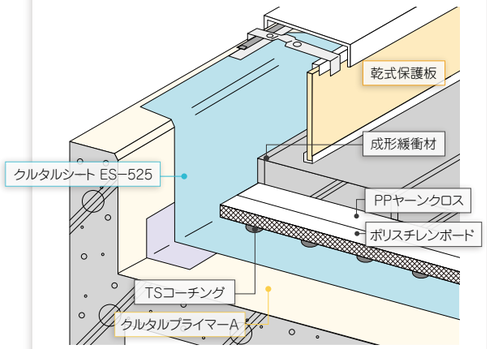
■露出防水 TK-340



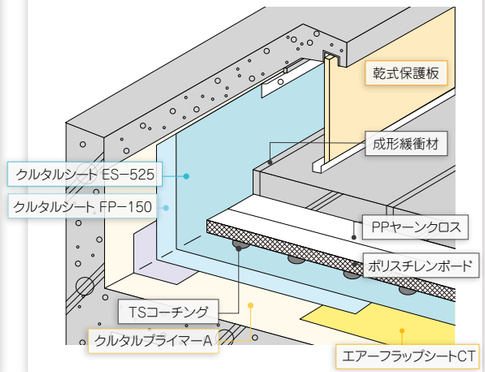
■露出防水 TK-340



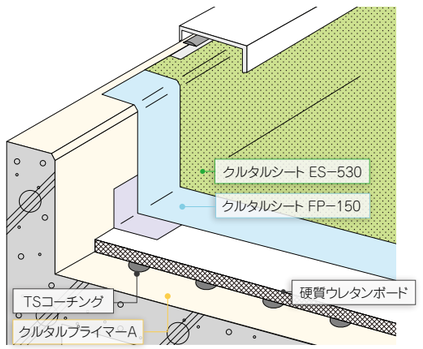
■押え断熱防水 TK-110D



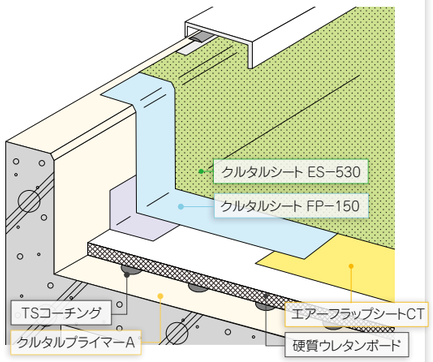
■押え断熱防水 TK-140D



■露出断熱防水 TK-320D



■露出断熱防水 TK-340D

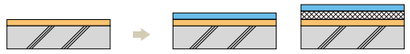


クルタルシート防水改修工法
適用工法と下地拵え

既存防水層が露出アスファルト防水

既存防水層を残す

適用工法 ▶ TK-310、TK-320、TK-340、TK-320D、TK-340D



［下地拵え］

(1) 立上り部の既存防水層は撤去する。(撤去部のひび割れ部は TS コーチングを充填する。)
(2) ドレン回りの既存防水層は撤去する。「下地処置例図 - 1(a)」
(3) フクレ、シワ及び滞水ヶ所の処置をする。「下地処置例図 - 3」
　(既存の撤去部の既存防水層と下地の段差が大きい場合は、段差周囲を溶着又は TS コーチング等でシール処理後、樹脂モルタルで平坦にする。)
(4) 下地に付着するアスファルト残存物は、ケレン及びバーナーとコテ、ヘラ等を用いて平坦にする。
(5) 不陸部分(水たまり跡)がある場合は、樹脂モルタルで平坦に仕上げる。
(6) 標準仕様の平場の工程 1 のクルタルプライマー A 0.2kg/ ㎡を下地活性剤クルタルボンド H 1.2kg/ ㎡に替え、雨養生を兼ねる。

既存防水層を撤去する

●新規防水層が密着工法の場合

適用工法 ▶ TK-310、TK-320、TK-320D、TK-340D

［下地拵え］

(1) 既存防水層は撤去する。
　(既存の撤去は当日のうちに雨養生ができる範囲内とし、降雨降雪が予想できる場合は行わない。)
(2) 下地のひび割れは TS コーチングでシールする。
(3) 下地に付着するアスファルト残存物はケレン及びバーナーとコテ、ヘラ等を用いて平坦にする。
(4) 標準仕様の平場の工程 1 のクルタルプライマー A 0.2kg/ ㎡を下地活性剤クルタルボンド H 1.2kg/ ㎡に替え、雨養生を兼ねる。
(5) 不陸部分がある場合は、樹脂モルタル等で平坦に仕上げる。(樹脂モルタルは十分に乾燥させる。)

●新規防水層が絶縁工法の場合

適用工法 ▶ TK-340

［下地拵え］

(1) 既存防水層は撤去する。
　(撤去は当日のうちに雨養生ができる範囲内とし、降雨降雪が予想できる場合は行わない。)
(2) 下地のひび割れは TS コーチングでシールする。
(3) 下地に付着するアスファルト残存物はケレン及び清掃で除去する。
(4) 雨養生はポリマーセメント系下地調整材又は樹脂ノロを用いて入念に行う。
(5) 不陸部分がある場合は、樹脂モルタル等で平坦に仕上げる。(樹脂モルタルは十分に乾燥させる。)
(6) 標準仕様の平場の工程 1 のクルタルプライマー A 0.2kg/ ㎡を下地活性剤クルタルボンド H 1.2kg/ ㎡に替え、雨養生を兼ねる。

既存防水層がウレタン塗膜防水

既存防水層を残す(既存防水層が密着工法の場合)

適用工法 ▶ TK-310、TK-320

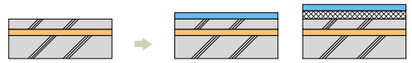
［下地拵え］

(1) フクレ、浮き部分は撤去し、ポリマーセメント系下地調整材で補修する。
(2) 標準仕様の工程 1. クルタルプライマー A 0.2kg/ ㎡を一液湿気硬化型ウレタンプライマー 0.1kg/ ㎡程度に替える。

既存防水層が保護(押え)防水

保護(押え)層を残す

適用工法 ▶ TK-310、TK-320、TK-340、TK-320D、TK-340D



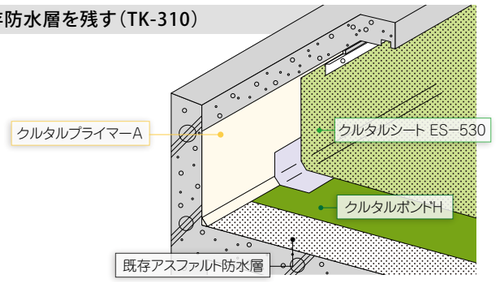
［下地拵え］

(1) 改修用ドレンを設けない場合のルーフドレン周囲の処置。「下地処置例図 - 1(b)」
(2) 改修用ドレンを採用する場合。「下地処置例図 - 1(c)」
(3) 立上りの保護層、防水層を撤去する場合は、下地に損傷を与えないように行う。
(4) 保護(押え)層にせり上りがある場合は、既存伸縮目地を拡幅する。
(5) コンクリートのはく落、浮き、剥離部等は撤去し、樹脂モルタル、ポリマーセメントペースト等で補修する。
(6) コンクリート欠損部は樹脂モルタルで補修する。
(7) 隣接する保護(押え)層に極端な段差がある場合は、樹脂モルタルでなだらかに修正する。
(8) ひび割れ部分は TS コーチング等で補修する。
(9) ひび割れ幅が 2 ㎜以上は U カット又は V カットし、TS コーチング等を充填する。
(10) 側溝部の段差はモルタル類でテーパー付けする。
(11) 既存伸縮目地の処置
　①脱気に利用しない場合「下地処置例図 - 2(a)」
　○ 成形伸縮目地のキャップは撤去し、TS コーチング等を充填し平坦にする。
　○ エラスタイト目地又は注入目地の押し出し部は、やや深めに撤去して TS コーチング等を充填する。
　＊目地部の絶縁処理は幅 200 程度の増張りを目地の中心より均等に振り分け、浮かし張りする。
　②脱気に利用する場合「下地処置例図 - 2(b)、(c)」
　既存目地はできるだけ深く撤去し、通気溝として利用する。
(12) コンクリート表面が経年で骨材の凹凸が著しい場合は、ポリマーセメント系下地調整材、樹脂ノロ又はポリマーセメントペースト等で平滑にする。

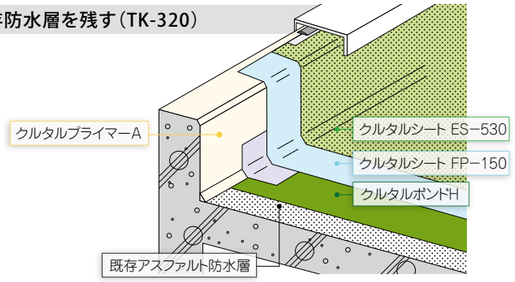
各下地処置例図は、14 ページを参照

改修施工例図

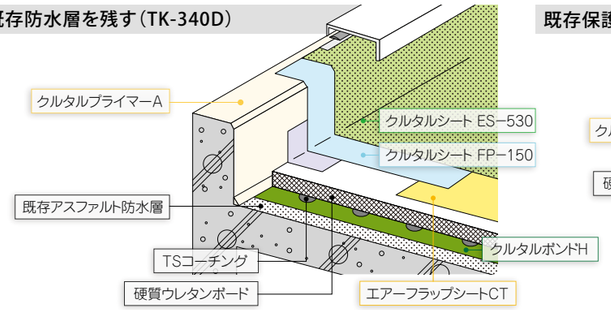
既存防水層を残す(TK-310)



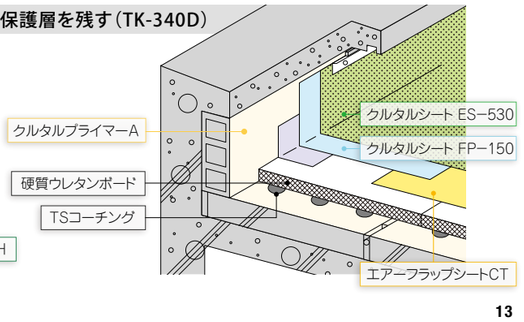
既存防水層を残す(TK-320)



既存防水層を残す(TK-340D)



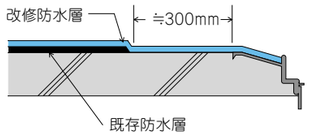
既存保護層を残す(TK-340D)



下地処置例図

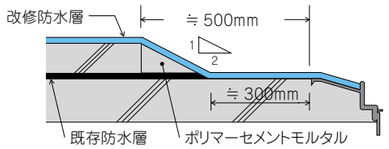
［例図 - 1］ルーフドレン回りの処置

（a）露出防水層



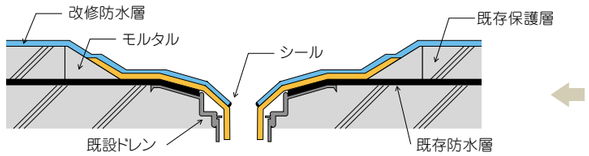
既存防水層をドレン端部から300mm程度撤去

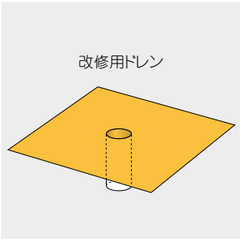
（b）保護（押え）防水層



保護層をドレン端部から500mm程度撤去
既存防水層をドレン端部から300mm程度撤去

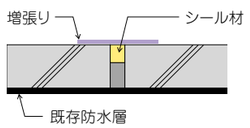
（c）改修用ドレンの取付け例



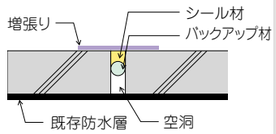


［例図 - 2］既存伸縮目地の処置

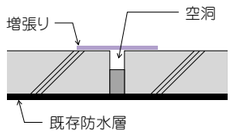
（a）脱気に利用しない場合



（b）脱気に利用する場合

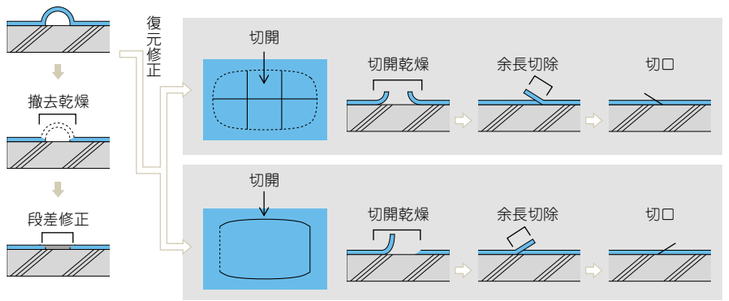


（c）脱気に利用する場合

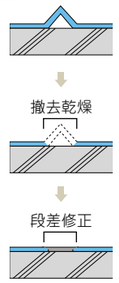


［例図 - 3］既存アスファルト系防水層の浮き（フクレ・シワ）の処置

フクレ部分の撤去による処置



シワ部分の撤去による処置



維持管理事項

1. 露出防水の場合は、原則として防水層のメンテナンスを除いて防水層上の利用は出来ません。
2. 防水層の上を歩く場合は、靴底が軟らかいものを使用し、ハイヒール、スパイクシューズ等の靴底の尖った履物は使用しないでください。
3. 防水層の上で火気の使用は行わないでください。（花火、タバコ等を含む）
4. 防水層の上に油、溶剤、酸、アルカリ等防水層に影響を与える可能性のある薬品をこぼさないでください。
5. 防水層の上で動物の飼育をしないでください。
6. 植栽仕様以外の防水層の上で直接土を入れて、植物を栽培しないでください。
7. 防水層の上に重量物を置かないでください。軽いものを置く場合でも防水層を損傷しない措置を行ってください。
8. 防水層の上で作業をする場合には、防水層を損傷しないように措置を行ってください。
9. 保証期間中の防水に関わる増改築等の工事を行う場合には、事前に防水施工業者にご相談ください。
10. 軽歩行仕様の場合、不特定多数の人が利用する場合には適しませんのでご注意ください。
11. 定期的（年2回）に防水層の上を清掃してください。特にドレン回り、排水溝の泥、枯葉等を良く除去し排水の詰まりがないようにしてください。
12. 清掃や雪下ろしをする際に、鋭利な道具を使用しないでください。
13. 梅雨前、降雪の前後、台風の通過前後等には点検を実施してください。
14. 点検時に異常を発見した場合及び漏水が発生した場合は、ただちに元請業者へご連絡ください。
15. 設備機器、アンテナ等の設置工事の際は、事前に防水施工業者にご相談ください。
16. 防水層上でゴルフの練習等、防水層を傷つける行為は行わないでください。